

○地域元気化プロジェクト ～各所で活動 自然の厳しさと安全管理～



9月20日(金)、総合的な学習の時間「村高発地域元気化プロジェクト」棚田班は、貫田うへ山棚田での稲刈りを行いました。生徒が、田植え、草取り等を行ってきた棚田は、猪により田の中央の稲がほとんど倒されていました。猪が体についた虫を取り除くために行ったようです。人間が生きるために米を必要とするように、動物たちも生きていくためのことなのでしょう。

今回は私も参加させていただきましたが、50年ぶり(?)の稲刈りでした。生徒たちは、鎌を使って倒れていない稲を中心に刈り取りを進めました。(家で手伝っている生徒もいるのか、なかなか手際が良いです)私は準備不足で、半そでのポロシャツで参加してしまいました。お手伝いいただいた役場の職員の方にもご指摘を受けました。「長袖」が常識、安全な作業の大切さとともに、自然の厳しさを感じた授業となりました。



また、9月18日(水)には、地域福祉班が射添小学校にてレクリエーション(ボンバーゲーム)を実施、新しいゲームを考案して活動しました。今回はスーパーの袋に新聞紙を入れてボールを作りドッチボールです。対象の小学生には学年差があり、安全への配慮が必要です。適切なグループ分け、ルール工夫など考えて企画が進められました。高校生を狙って思いっきり投げる笑顔の小学生たちが印象的でした。

このほかにも今回は、環境班(森の健康診断グループ)が間伐材の搬出作業を行いました。搬出中に間伐材とぶつかった生徒がいたようですが、大事には至らなかったようです。せっかくの地域との事業もけがをしては何もありません。自分の準備不足とともに、生徒に対して安全面、健康面への指導の大切さを痛感しました。